

経営比較分析表

神奈川県 大和市

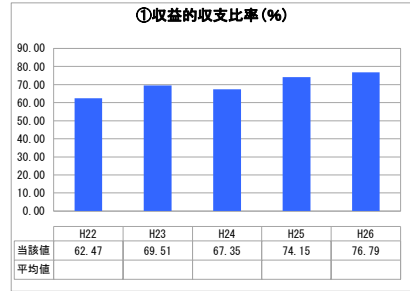
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Aa	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	95.09	92.85	1,994

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
233,586	27.09	8,622.59
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
222,143	19.30	11,510.00

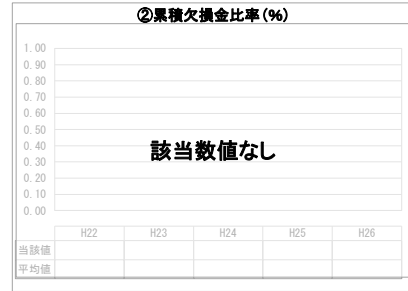
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

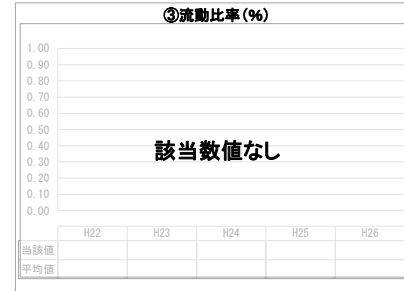
1. 経営の健全性・効率性



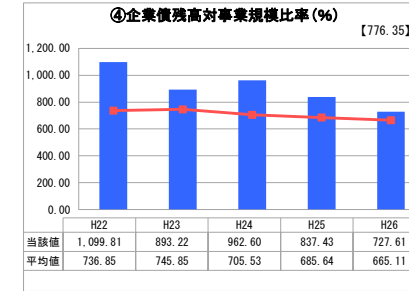
「単年度の収支」



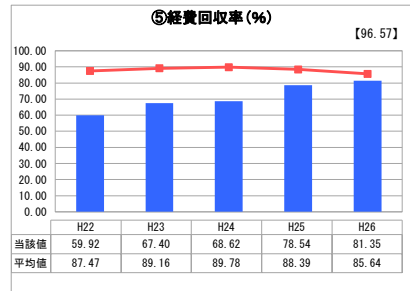
「累積欠損」



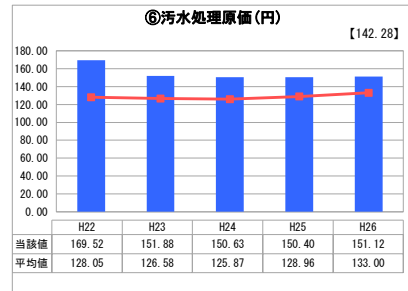
「支払能力」



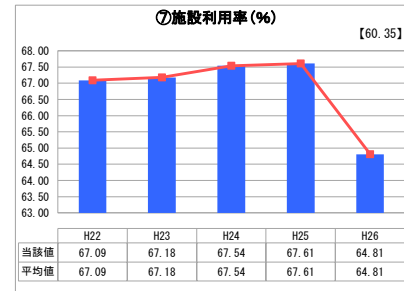
「債務残高」



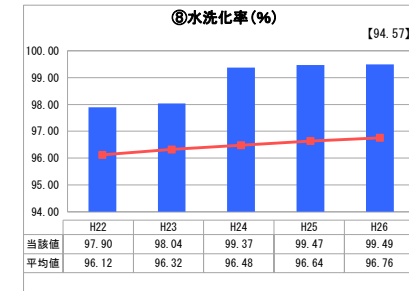
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

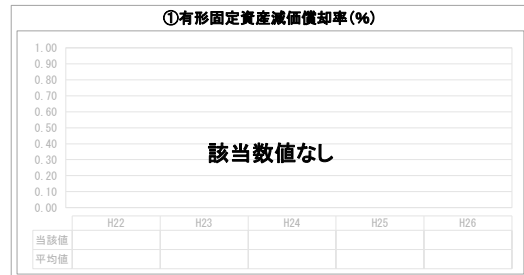


「施設の効率性」

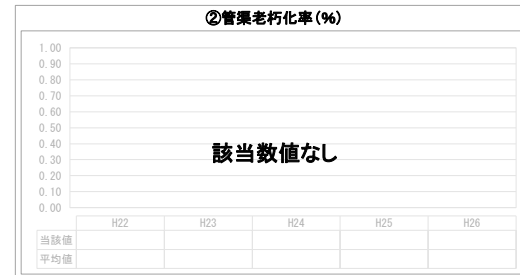


「使用料対象の捕捉」

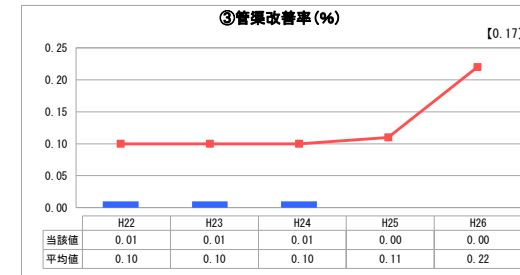
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は76.79%と100%以下となっておりますが、経年で比較した場合は右肩上がりとなっております。企業債残高対事業規模比率は、類似団体よりやや高い水準ですが平均に近くになっており、また経費回収率についても81.35%と100%以下ですが、徐々に改善しています。平成25年度に使用料の改定を行ったことにより、改善の効果が表れています。

しかしながら、依然として収益的収支比率は100%に達していないことから、使用料収入以外の財源に依存している状況です。水洗化率は、すでに100%近くまで達していることや今後、人口の増加が見込まれないことから、使用料収入の増加が望まれないため、厳しい経営状況に推移していくことが予想されます。

適正な収支のバランスを図るため、さらなる維持管理費の削減や、使用料改定を視野に入れた経営戦略を立てる必要があります。

2. 老朽化の状況について

今後、管の老朽化が進むため、老朽化対策が急務な管路を洗い出し、優先順位をつけて更新する必要があります。

全体総括

近い将来、厳しい経営状況に推移することが予想されることや、施設の老朽化が進んでいる状況を踏まえ、投資計画や財源の見直しを進める必要があります。

料金収入見直しについては、近隣自治体の状況や社会情勢を踏まえて、慎重に検討していきます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。